

成果指標一覧

重点課題	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値	指標選定の考え方	目標値設定の考え方	
政策目標1 子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街								
1-1 子どもを生き育てやすい環境づくり	【 市民意識・行動指標 】							
	1	子育てしやすいまちだと思ふ人の割合	43.3% (18年度)	49.0% (21年度)		60% (22年度)	子育て環境に対する市民意識を示す指標	3人に2人程度が子育てしやすいまちだと思ふ状態を目指す
	【 社会成果指標 】							
	2	札幌圏で育児休業を取得した人数	5,004人 (18年度)	8,260人 (21年度)		7,000人 (22年度)	企業によるワーク・ライフ・バランスへの配慮が進んだことを示す指標の一つ	過去の傾向を参考に、毎年度500人程度の増加を目指す
	3	保育所待機児童数	212人 (531人) (19年度)	840人 (1,290人) (22年度)		0人 (23年度)	保育環境の充実度を示す指標の一つ	待機児童の解消を目指す (H23.4.1現在の数値)
	4	新生児訪問指導を受ける人の割合	62.2% (17年度)	91.0% (20年度)		100% (22年度)	親子の健康と育児への関心の高さを示す指標の一つ	国が示す「全戸訪問」の達成を目指す
5	子育てサロンが開催されている地域の割合 (小学校区単位で見た場合)	86% (18年度)	92% (21年度)		100% (21年度)	地域での子育て支援の充実度を示す指標の一つ	次世代育成支援対策推進行動計画に掲げる平成21年度の目標値100%の達成を目指す	
1-2 未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実	【 市民意識・行動指標 】							
	6	家庭などにおいて、自分の興味あることについて調べたり、勉強したりしている児童生徒の割合	—(18年度) 51.5% (19年度)	51.5% (20年度)	-	100% (22年度)	子どもの学びの意欲に関する指標の一つ	すべての児童生徒が興味のあることについて自ら進んで学ぶ意欲を持つ状況を目指す
	【 社会成果指標 】							
	7	地域への授業公開校の割合(小・中学校)	75.1% (18年度)	85.6% (21年度)		100% (22年度)	地域に開かれた学校づくりの状況を示す指標の一つ	全校が公開している状況を目指す
	8	小・中学校における地域人材の活用人数	10,259人 (18年度)	12,622人 (21年度)		12,000人 (22年度)	学校教育における地域連携の推進状況を示す指標の一つ	1校当たり40人程度の地域人材の活用を目指す
	9	不登校児童・生徒の出現率	1.09% (18年度)	1.18% (20年度)	-	1.0%未満 (22年度)	不登校に対する取り組み状況を示す指標の一つ	過去5年間で最も低い出現率1.0%を下回ることを目指す
10	児童会館で行われている事業の参加者数	41万人 (18年度)	49万人 (21年度)		47万人 (22年度)	子どもの多様な体験状況を示す指標の一つ	過去の推移をもとに、今後のミニ児童会館の整備見通しを踏まえ設定	

重点課題	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値	指標選定の考え方	目標値設定の考え方	
政策目標2 主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街								
2-1 市民の主体的な地域づくりの支援	【市民意識・行動指標】							
	11	町内会、NPO、ボランティアなど市民まちづくり活動に参加経験のある人の割合	41.1% (18年度)	38.7% (21年度)		60% (22年度)	市民活動の活発さを示す指標の一つ	3人に2人程度が参加経験を持つことを目指す
	12	コミュニティ組織(町内会など)の活動が盛んに行われていると思う市民の割合	57.8% (18年度)	58.2% (21年度)		70% (22年度)	地域のまちづくり活動の活発さを示す指標の一つ	7割の市民がコミュニティ活動が盛んであると感じることを目指す
	【社会成果指標】							
	13	NPO認証法人数(札幌市に主たる事務所を置くもの)	569団体 (18年度)	723団体 (21年度)		900団体 (22年度)	NPO活動の活発さを示す指標の一つ	過去の傾向を参考に設定
14	地域と創る冬みち事業に参画した町内会数	186 町内会 (18年度)	498 町内会 (21年度)		560 町内会 (22年度)	市民の主体的な雪対策の状況を示す指標	対象町内会(1,877)の3割が参画することを目指す	
2-2 札幌の経済を支える企業・人の支援	【社会成果指標】							
	15	中小企業向け融資制度の新規融資件数及び融資額	8,579件 1,095億円 (18年度)	9,919件 1,245億円 (21年度)		8,900件 1,109億円 (22年度)	中小企業に対する資金面での支援を示す指標	金融情勢並びに融資実績から推計した件数及び金額を設定
	16	経営や起業に関する相談・アドバイス件数	4,034件 (18年度)	6,880件 (21年度)		8,000件 (22年度)	起業や中小企業の経営課題解決にあたってアドバイス面での支援の充実を示す指標	現状の2倍近い相談・アドバイス件数を目指す
	17	展示会・商談会への参加企業数	166企業 (18年度)	327企業 (21年度)		300企業 (22年度)	販路拡大を支援するための展示会・商談会への出展支援の充実を示す指標	過去の実績を上回る参加企業数を目指す
	18	雇用創出事業及びマッチングによる就職者数	4,441人 (18年度)	5,097人 (21年度)		6,000人 (22年度)	就職支援体制の充実などによる実績を示す指標	過去の実績を上回る就職者数を目指す
政策目標2 主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街								
2-3 札幌らしい新産業の育成と企業の誘致	【社会成果指標】							
	19	スイーツ王国さっぽろ推進協議会への参画会員数	85件 (18年度)	150件 (21年度)		170件 (22年度)	洋菓子産業振興の取り組み、対外的アピール力強化を示す指標	現状の2倍の参画会員数を目指す
	20	札幌スタイル認証製品数	56件 (18年度)	130件 (21年度)		100件 (22年度)	新たなデザイン提案などを商品化に結びつける成功事例の蓄積を示す指標	現状の認証製品数の8割程度の増加を目指す
	21	取引可能な映像作品等の集積本数(累計)	1,500本 (18年度)	9,107本 (21年度)		10,000本 (22年度)	市民の札幌国際短編映画祭に対する関心の高さを示す指標	現状の7倍近い作品(コンテンツ)の集積を目指す
	22	大学の共同研究・受託研究実績	821件 (18年度)	965件 (21年度)		1,000件 (22年度)	大学における共同研究・受託研究を示す指標	過去の実績を上回る研究実績を目指す
	23	IT・コンテンツ・バイオ企業及びコールセンター・ニュービジネスの誘致数	39件 (18年度)	65件 (21年度)		75件 (22年度)	経済・雇用の活性化の起爆剤となる企業誘致数を示す指標	現状の2倍近い企業誘致数を目指す

重点課題	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値	指標選定の考え方	目標値設定の考え方	
政策目標3 高齢者・障がい者へのめくもりあふれる街								
3-1 高齢者の 地域生活支援 の充実	【 市民意識・行動指標 】							
	24	週2回以上外出する高齢者の割合	78.2% (18年度)	82.1% (21年度)		85% (22年度)	高齢者の社会参加の状況を示す指標の一つ	現状から5ポイント以上の増加を目指す
	25	町内会やボランティア活動、老人クラブ活動をしている高齢者の割合	9.5% (18年度)	8.0% (21年度)		20% (22年度)	高齢者の社会参加の状況を示す指標の一つ	5人に1人が活動をしている状態を目指す
	【 社会成果指標 】							
	26	シニアサロンに参加している人数(箇所数)	9,021人 (6カ所) (18年度)	24,568人 (10カ所) (21年度)		48,000人 (20カ所) (22年度)	社会参加の機会になっている状況を示す指標の一つ	過去の傾向を上回る伸びを目指す
	27	認知症サポーター養成数(累計)	1,862人 (18年度)	12,013人 (21年度)		9,000人 (22年度)	地域福祉力の向上を示す指標の一つ	国の目標数に準拠
	28	一般高齢者の介護予防事業への参加者数	41,228人 (18年度)	50,965人 (21年度)		58,500人 (22年度)	高齢者が自立した生活を送ることができるようにするための指標の一つ	現状の「すこやか倶楽部、介護予防教室」参加者数の4割以上の増加を目指す
29	転倒・骨折予防事業への参加者数	1,702人 (18年度)	16,432人 (21年度)		2,400人 (22年度)	高齢者が自立した生活を送ることができるようにするための指標の一つ	現状の4割程度の増加を目指す	
3-2 障がい者の 自立支援の 促進	【 市民意識・行動指標 】							
	30	まちのバリアフリー化が進んでいると感じる障がいのある人の割合	29.3% (19年度)	41.4% (21年度)		50% (22年度)	障がいのある人が感じる「まちのバリアフリー」の進展度を示す指標	障がいのある人の2人に1人がバリアフリー化が進んでいると感じる状態を目指す
	31	まちのバリアフリー化が進んでいると感じる人の割合	-(18年度) 39.9% (19年度)	37.5% (21年度)		60% (22年度)	障がいのある人も含めた全ての人が感じる「まちのバリアフリー」の進展度を示す指標	「まちのバリアフリー化が進んでいると感じる障がいのある人の割合」の目標値の+10%を目指す
	【 社会成果指標 】							
	32	入所施設の入所者の地域生活への移行者数(H19～22累計)	-(18年度) 62人 (19年度)	135人 (～H20.9)	-	320人 (22年度)	身体・知的障がいのある人の地域生活への移行を示す指標	「障がい福祉計画(H18～23)」に掲げる目標値の達成を目指す
33	入院中の精神障がい者の地域生活への移行者数(H19～22累計)	-(18年度) 28人 (～H20.1)		-	264人 (22年度)	退院可能な精神障がいのある人の地域生活への移行を示す指標	「障がい福祉計画(H18～23)」に掲げる目標値の達成を目指す	
34	福祉施設から一般就労への移行者数	22人 (17年度)	83人 (21年度)		87人 (22年度)	障がいのある人の一般就労の状況を示す指標	「障がい福祉計画(H18～23)」に掲げる目標値の達成を目指す	

重点課題	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値	指標選定の考え方	目標値設定の考え方	
政策目標4 安全・安心で、人と環境にやさしい街								
4-1 水とみどりの 保全・育成と 創出	【 市民意識・行動指標 】							
	35	身近なみどりの満足度	-(18年度) 62.1% (19年度)	67.2% (21年度)		50% (22年度)	みどりに対する満足の度合いについての市民意識を示す指標	2人に1人が身近なみどりに満足する状態を目指す
	36	地域の緑化活動への参加意識	-(18年度) 62.7% (19年度)	61.2% (21年度)		50% (22年度)	地域の緑化活動への市民意識を示す指標	2人に1人が緑化活動に参加する意識を持つ状態を目指す
	【 社会成果指標 】							
	37	河川の水環境目標値(環境基準)の達成率	100% (18年度)	93% (21年度)		100% (22年度)	水質保全対策の成果を総合的に示す指標	全ての地点で環境基準の維持を目指す
38	みどりに関わるボランティア登録団体数	50団体 (18年度)	100団体 (21年度)		100団体 (22年度)	市民のみどりに対する保全・創出活動の取組状況を示す指標	現状の2倍程度を目指す	
4-2 地球環境問題 への対応と 循環型社会の 構築	【 社会成果指標 】							
	39	市民の省エネ・省資源行動指標(省エネ・省資源を实践したことによるCO2削減量)	-(18年度) 6万t (19年度)	7.5万t (20年度)		10万t (22年度)	市民の環境行動の実践状況を示す指標	「札幌市温暖化対策推進計画」に基づき算定
	40	市内における新エネルギー・省エネルギー機器導入によるCO2削減量	13,000t (18年度)	43,000t (21年度)		55,000t (22年度)	市民のエネルギー問題に取り組む状況を示す指標	「札幌市温暖化対策推進計画」における目標値の達成を目指す
	41	廃棄ごみ量(平成16年度対比)	6%減量 (18年度)	31.6%減量 (21年度)		20%減量 (22年度)	ごみ減量の状況を示す指標	「札幌市一般廃棄物処理基本計画」に基づき算定
	42	環境に配慮している事業者数(EMS構築数のみ)	776件 (18年度)	1,887件 (21年度)		2,000件 (22年度)	環境保全に向けて取り組む企業などの状況を示す指標	現行のEMS構築事業者数に加え、本市独自の環境配慮定義による環境配慮事業者数の増加を見込んで設定

重点課題	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値	指標選定の考え方	目標値設定の考え方	
政策目標4 安全・安心で、人と環境にやさしい街								
4-3 日常の身近な暮らしの安心の確保	【市民意識・行動指標】							
	43	日常生活において、身近な犯罪に対する不安感を抱いている市民の割合	72.9% (18年度)	59.1% (21年度)		60% (22年度)	身近な犯罪に対する市民の不安感を示す指標	毎年3ポイント程度の減少を目指す
	【社会成果指標】							
	44	人口1万人当たりの火災発生件数(出火率)	4.2件 (18年度)	3.6件 (21年度)		4.0件 (22年度)	火災の発生頻度を示す指標	政令市の過去5年の平均値4.1を下回ることを目指す
	45	地域防犯活動に参加している人の割合	12.9% (18年度)	20.5% (21年度)		17% (22年度)	安全・安心に関する地域活動への市民の意識を表す指標	毎年1ポイント程度の向上を目指す
46	救命講習の受講人員	19万人 (18年度)	28万人 (21年度)		29万人 (22年度)	市民による救命活動の向上を示す指標	生産年齢人口の2割以上を目指す	
4-4 災害に強い安全なまちの整備	【社会成果指標】							
	47	自主防災組織の結成率	86.6% (18年度)	88.9% (21年度)		90% (22年度)	市民の自主的な防災活動の普及の度合いを示す指標	現状から3ポイント程度増やすことを目指す
	48	簡易型災害図上訓練(DIG)に参加した人数	1,063人 (18年度)	2,047人 (21年度)		2,500人 (22年度)	市民の防災意識の高揚感を示す指標	平成18年度の参加人数の2倍以上を目指す
	49	第1次緊急輸送道路における橋りょうの耐震化率	68.8% (18年度)	93.8% (21年度)		100% (22年度)	災害時における緊急輸送道路(市内)の確保を示す指標	平成22年度に第1次緊急輸送道路の耐震化100%を目指す
50	札幌市内の住宅の耐震化率	82.8% (18年度)		—	85.5% (22年度)	民間建築物の耐震化の状況を示す指標	平成27年の耐震化率90%を目標に、平成22年度時点の目標を設定	

重点課題	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値	指標選定の考え方	目標値設定の考え方	
政策目標5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街								
5-1 札幌の特色を活かした文化芸術の振興	【社会成果指標】							
	51	主要文化芸術施設(芸術の森・札幌コンサートホール・教育文化会館など)の利用者数	150万人 (18年度)	161万人 (21年度)		180万人 (22年度)	市民の文化芸術活動の活発さや芸術鑑賞などに対する関心の度合いを示す指標	過去5年平均伸び率を基に設定
	52	市内主要イベント(PMF、札幌交響楽団公演、サッポロ・シティ・ジャズ、アートステージ)の観客者数	52万人 (18年度)	54万人 (21年度)		65万人 (22年度)	市民の文化芸術活動の活発さや芸術鑑賞などに対する関心の度合いを示す指標	過去の平均伸び率や、動員見込みを基に設定
	53	主要文化財施設(時計台、豊平館、清華亭など)の利用者数	28万人 (18年度)	26万人 (21年度)		30万人 (22年度)	文化遺産に対する関心の度合いを示す指標	年1%程度の伸びを見込み設定
	54	文化芸術に関するボランティア数(サッポロ・シティ・ジャズ、キタラ、PMFなど)	159人 (18年度)	322人 (21年度)		500人 (22年度)	市民の文化芸術活動の活発さや関心の度合いを示す指標	過去の平均伸び率や、動員見込みを基に設定
5-2 スポーツを楽しむ環境の充実と健康づくりの推進	【市民意識・行動指標】							
	55	週に1回以上スポーツ(運動)を実施する人の割合(成人)	30.5% (18年度)	35.2% (21年度)		50% (22年度)	市民のスポーツ活動の活発さを示す指標	「スポーツ振興計画」に掲げる平成22年度の目標値50%の達成を目指す
	56	直接スポーツ観戦をする人の割合	46.8% (18年度)	43.7% (21年度)		60% (22年度)	市民のスポーツ観戦に対する関心の度合いを示す指標の一つ	3人に2人程度が、年に1回以上直接スポーツを観戦することを目指す
	57	自分の健康状態をふつう以上と感じる人の割合(成人)	77.8% (18年度)	79.0% (21年度)		85% (22年度)	健康状態についての市民の自己評価を示す指標	現状の1割程度の増加を目指す
	【社会成果指標】							
58	健康づくり応援企業・店舗数	1,227件 (18年度)	1,908件 (21年度)		2,000件 (22年度)	企業などによる市民の健康を意識した取り組みの状況を示す指標	過去の増加件数を踏まえ、各年度200件の増加を目指す	

重点課題	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値	指標選定の考え方	目標値設定の考え方	
政策目標5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街								
5-3 将来を見据えた魅力ある都市の整備	【市民意識・行動指標】							
	59	札幌の都心に「にぎわい」があると感じる人の割合	64.7% (18年度)	61.6% (21年度)		75% (22年度)	市民が感じる都心の活力を示す指標	4人に3人が、都心ににぎわいがあると感じる状態を目指す
	60	住んでいる地域の住環境(街並み)に満足している人の割合	53.4% (18年度)	56.0% (21年度)		65% (22年度)	住んでいる地域の住環境(街並み)に対する市民の意識を示す指標	3人に2人が、住環境に満足していると感じる状態を目指す
	61	公共交通に対する満足度	42.3% (18年度)	45.8% (21年度)		50% (22年度)	公共交通の質的充実度を示す指標	2人に1人が、公共交通に対し満足することを目指す
	【社会成果指標】							
62	公共交通の利用者数	109万人 (18年度)	107万人 (21年度)		110万人 (22年度)	公共交通の量的充実度を示す指標	減少傾向に歯止めをかけ、増加に転じることを目指す	
5-4 新たな集客交流資源の創出と魅力の発信	【市民意識・行動指標】							
	63	観光地としての総合満足度	84.7% (18年度)	85.4% (20年度)		90% (22年度)	観光魅力、受入環境の充実度などを示す指標	現状から5ポイント程度の増加を目指す
	【社会成果指標】							
	64	年間来客数	1,410万人 (18年度)	1,301万人 (21年度)		1,500万人 (22年度)	集客交流の状況を示す指標	過去10年間の平均伸び率の3倍の伸び率を見込んで設定
	65	外国人延べ宿泊者数	559,272人 (18年度)	649,210人 (21年度)		70万人 (22年度)	海外からの集客交流の状況を示す指標	毎年度35,000人程度の増加を見込んで設定
66	札幌市内での総観光消費額	4,776億円 (16年度)		—	5,500億円 (21年度)	集客交流の札幌市経済に対する貢献度を示す指標	5年間で15%程度の増加を目指す	